

# Fons Sapientiae

仙台白百合女子大学図書館報 フォンス サピエンティアエ



Information  
de la Bibliothèque  
de l'Université SENDAI SHIRAYURI

No. 1  
2006.9.20

## 知の泉 発刊に寄せて

学長 片岡 照子

1966年4月、家政科のみの仙台白百合短期大学が発足以来40年が経過しました。その後、学科増設、学科改正を重ねつつ、四年制大学として新たな出発をしてより早くも10年が経ち、その流れを去る2月に発行された学报「リス・ブラン」第48号に記載しました。ここで図書館報「知の泉」が創刊されますことは誠に喜ばしいことです。

各図書館がただその蔵書数を競う時代は過ぎ去りました。ますますグローバル化してゆく教育界においても、大学の心臓ともいべき図書館の内容、運営の力量が問われる時代に突入しております。

短大発足以来の図書館は、当初の経済的な問題、学科の編成にも因りますが、余りにも狭く、蔵書も決して誇れ

るものではありません。図書室が1号館、2号館、5号館と分室されている現状は、不便の上もなく、職員の仕事の能率、書籍収納の問題が山積しておりました。

2007年秋完了見込みのキャンパス整備の一環として現在、3階のみを図書館としている2号館を全館図書館として改築が終了しました。名称もラテン語で「Fons Sapientiae」（知の泉）と改称し、名に恥じない大学図書館として教職員、学生、地域の方々の御利用を期待しております。同時に館報の創刊はまことに時宜を得たことで、図書館長をはじめ編集委員、図書館員他、ご協力頂いた方に感謝すると共に図書館の充実と広報に力を注いで下さることをお願いして発刊の辞といたします。

### ◆ Contents

- 1 「知の泉」発刊に寄せて
- 1 図書館報 創刊によせて
- 2 推薦図書
- 3 利用者の声
- 4 “新”図書館のご案内
- 6 新着図書の紹介
- 7 特殊コレクションの紹介
- 8 指定図書のご案内
- 8 10月の開館予定
- 8 編集後記

## 図書館報 創刊によせて

図書館長 大本 泉

2006年10月、仙台白百合女子大学図書館は、2号館を利用してリニューアルすることになりました。今年度の図書委員会メンバーは、新図書館の誕生を契機に、歴代の図書委員が培ってきた良き伝統を継承しつつ、「進化し続ける図書館」をうちだす新企画はないものだろうか、検討しました。その結果、立案されたものの一つが、こ

の図書館報の創刊です。

図書館は、利用者が、収集された知の情報資料で学習・研究する場です。知的好奇心がゆさぶられる、広義のあそびの場でもあります。図書館報発行のねらいは、利用者に図書館の活動を理解していただき、身近な図書館として、一層活用していただくことにあります。利用者と図書館とのコミュニケーションの架橋となる情報誌でありたいと思っております。

図書館報名は、図書館名と共に、学長の片岡照子先生に推薦していただき、ラテン語訳は、カトリック研究所所長岩田靖夫先生をお願い致しました。こ

の場を借りて、御礼申し上げます。

これからの大学図書館は、電子図書館としての性質も担うものとしての変革が迫られています。図書館報も、「進化し続ける図書館」とともに、その役割を常に考えていかなければなりません。将来は、本学図書館を地域の方々にも利用していただけるものとして、図書館報「Fons Sapientiae」（知の泉）は、外に開かれた知の発信メディアにもなるように、努力していきたいと思っております。

今後とも御指導よろしくお願いたします。

## 環海異聞／大槻玄沢[ほか] 著 雄松堂出版

国際教養学科 教授  
横尾元意

寛政5年（1793年）11月21日に、石巻港を出港した千石船が、福島県沖で逆風に遭って漂流し、翌年の6月に極北のアリューシャン列島に漂着する。乗組員はオホーツク港に連れて行かれ、その後、シベリアを横断してペテルブルグに行き、ロシアに8年間滞在していたが、帰国を希望した4人が、ロシア皇帝アレクサンドル1世から許され、日本に派遣される使節レザノフ隊に便乗して、大西洋を渡り、南アメリカを迂回し、ハワイを経由して太平洋を横断し、カムチャッカに着岸後、南下して文化7年（1806年）9月6日に、石巻港を出てから13年を経て、長崎に帰着した。

宮城県の船乗り4人が、ちょうど200年前、北極海まで流されたり、南極の氷山の海を見たりしながら、世界一周をしたのである。ロシアでは気球や観覧車やサウナ風呂などを見学している。この体験を、伊達家別邸で、津太夫らに聞き取りをして、3年かかりでまとめたのが、江戸蘭学の中心人物であった大槻玄沢である。それが『環海異聞』である。その書き出しで、蝦夷地にまで触手を延ばすロシアを知るにつけ、広く世界の各国について様々な知識を求めるべき緊急性が力説されている。仙台ゆかりの蘭学者による警世の書でもある。

## ゲド戦記 I「影との戦い」／アーシュラ・K. ル＝グウィン 著 岩波書店

図書館職員  
山口普子

ジブリが映画化し話題となったゲド戦記ですが、これは主人公ゲドの幼少から青年期を描いています。少年ゲドは魔法の才能を師オジオンに見出され、魔法使いの学校ロック学院に入学、そこで自らの傲慢によって死の国から影を呼び出してしまいます。学院を出て旅をしながら影と幾度も向き合っていくうちに、真の魔法使いとは何かということに気がついていきます。

魔法を誰にでも使える全能のものとして

は描いていない点が新鮮です。こちらで雨を降らせれば、あちらが干ばつになるかもしれない。均衡を崩した時に生まれる危険性。初めてこの作品を読んだ時、作者がアメリカ人と知って驚いた記憶がありますが、相反するように見える光と影・陰と陽・言葉と沈黙、といった二律背反的なものが実は一体であるという東洋的とも言える世界観が随所で語られており、これが物語に厚みを与えています。

## だからあなたも生きぬいて／太平光代 著

人間発達学科 2年  
秋元珠希

これは、中学から多様ないじめにあい、それを苦に割腹自殺をはかった著者が、実父の友人である「おっちゃん」に会い、過去を断ち切る決意をする。そして猛勉強の末、見事「宅建」「司法試験」に合格するという著者の自伝だ。

私は、この本を読んで改めて命の大切さを痛感すると共に、人間、生きていて意味のない、価値のない人などいないのだと再認識した。そして、どんなことにも本気で立ち向かえば未来は拓けるということと思

講談社

い知らされた。人は今、どんな苦しみ、悲しみのなかにも負けてはならない。

この本は、いじめにあって苦しんでいる人、立ち直るなんて無理だとあきらめている人に大いなる励まし、勇気となるだろう。そして、現在弁護士として非行少年の更生に努める著者大平光代さんの思いが、一人でも多くの人に届くことを私は願う。

「あきらめたら、あかん！」

## 図書館を利用して

健康栄養学科(管理栄養専攻 4年) 阿部香織

私は健康栄養学科に属しているため、主に第1図書室を利用しています。図書館内は当然のことながら本がたくさんあります。また、夏は涼しく冬は暖かく、とても静かなので、本を読むだけではなく、勉強をする環境としても最適だと感じています。私が図書館を利用する時は、ほとんどが大学の講義での参考書を借りたり、何かを調べる時です。しかし、近年のインターネットの普及により、何かを調べる時にはインターネットを利用するという人も多いと思います。私もインターネットを利用することはあるのですが、インターネットの情報の中には、信憑性に欠けるものもあるように私は感じています。そのため、私はインターネットの情報だけには頼らず、情報源がはっきりしている本をできるだけ利用しています。図書館内の本はきちんとジャンル別に並べてあるため、とても探しやすく、また、どうしてもどこにあるかわからないという時は、図書館職員の方に声をかけるとやさしく応じてくれます。それに、図書館内には専門的な本だけではなく、文庫本なども数多く揃えてあるため、時々息抜きに借りて読むといった利用もしています。

そして、10月からは3つの図書室が一つにまとまり、図書館が新しくなります。私は、今まで第2図書室にはほとんど行ったことがなかったため、これを機に、より幅広いジャンルの本を読みたいと思います。そして、様々な本を読むことで、新たな発見をしたり、新しく何かに興味を持つきっかけとなり、自分のさらなる成長へとつながるのではないかと期待しています。

## 新図書館への期待

総合福祉学科(生活福祉専攻 3年) 泉さやか

私は今、学部の3年生とういことで、ゼミでの発表や論文の執筆、様々な実習へ向けた準備のために、図書館を利用しています。図書館は冷暖房が完備されており、講義が行われている教室から離れているため、静かで過ごしやすい環境が整っていました。司書の方々も様々な面でサポートしてくださるので、学習に適した場所だと思います。

しかしながら、今までの図書室は3室に分散されていたということもあり、必要なときに全ての資料をそろえることが不便なことも度々ありました。だからこそ、今回の改装で図書館棟としてひとつにまとまることは、大変喜ばしいことです。

私が入学した頃に比べると、年々図書室の蔵書も増えてきました。しかしながら、古くからの文献が多く、最新の社会状況に合った文献がまだ不足しているように感じられます。ほかの学科でも言えることだと思いますが、私の学んでいる「社会福祉」は、毎年のように法改正や、それに伴って新たな社会制度が構築されています。社会の最新動向についての理解を深めるためにも、今後、さらに多くの最新図書を購入していただけたら、うれしく思います。また、さらなる図書館の充実を図るために、開館時間等についての検討もお願いしたいと思います。

これからは新しい図書館で、私自身も目標に向かって勉学に励んでいきたいです。



## 仙台白百合女子大学 2号館図書館棟

10月2日より、新図書館として2号館図書館棟がオープンします。新しい図書館では、今までとシステムが全然違いますので、そちらからご説明いたします。今までは、カバン等荷物の持ち込みを禁止していましたが、今後は入館ゲート及びブック・ディテクションが設置されますので、荷物を持ち込んでも大丈夫になりました。入館ゲートに、学生証カードまたはライブラリーカードを通して、ゲートを開けて入館することになります。学生証は後期授業開始時に、1年生から3年生までは学生課で受け取って下さい。4年生はライブラリーカードを使う事になりますので、あらかじめ写真を提出して申し込んでいた人は、図書館で受け取って下さい。写真を提出していない4年生は3×4 cmのカラー写真を用意して図書館に申し込んで下さい。教職員の方は、身分証明書が、ライブラリーカードとしてお使いいただけます。

荷物は従来通り、入口脇のコインロッカーに入れても、入口を入ってからのコインロッカーに入れてもかまいません。もちろん、そのまま荷物を持ち込んでお使いいただいても結構です。ただし、館内での飲食は厳禁ですし、携帯電話もなるべく電源を切って下さい。図書館は自学自習の場ですので、まわりで勉強している利用者の迷惑とならないよう、大学生として自覚を持った

行動を心がけて下さい。

1階の入館ゲートのすぐ左側にカウンターがあり、貸出は主としてここで扱います。学生証カードと借りたい本を持って、貸出手続きを受けて下さい。また、入口右側の掲示板脇に自動貸出装置が置いてあり、ここでも貸出が出来る様になっています。貸出手続きを受けずに退館ゲートを通るとブック・ディテクション・システムが作動して警告音がなりますので、ご注意ください。1階入口を右に曲がりますと、まずカラーコピー機と検索端末が2台あります。このコピー機はカード専用です。カードは生協で販売しております。もし、カードがなくて使用したい時は、その横の検索端末の奥に、レファレンス・カウンターがありますので、そちらに申し出て下さい。コピー機は現金用のモノクロコピー機が3階にもあります。1階から3階の各階に検索用端末が2台あり、図書館のOPAC（オンライン閲覧用目録）で蔵書を検索することが出来ます。検索用のシステムも今までのものとは違い、フリーワードで探したり条件項目で探したりといった一般の図書館で使われているものと同じ形になり、より検索がわかりやすくなっています。

館内の図書の配置ですが、1階は構造及び管理の都合上、集密書架と事務室を置かざるを得ませんでしたので、

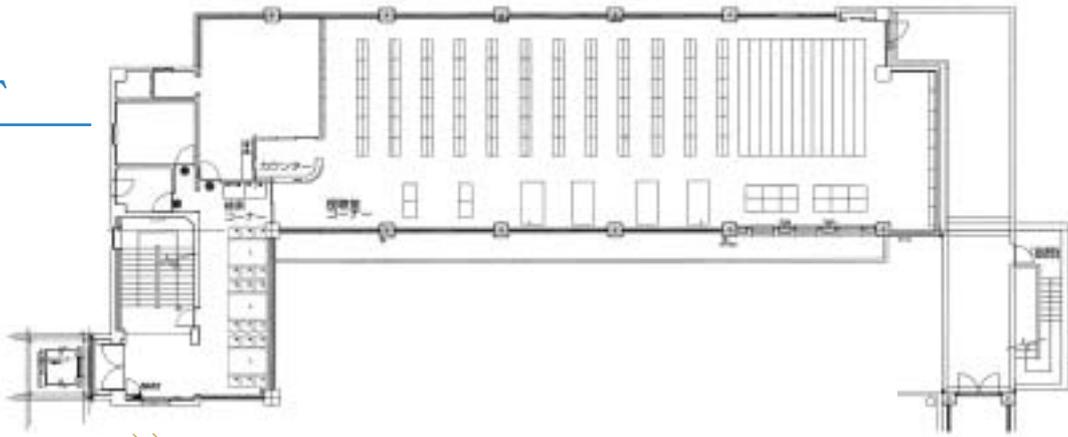
閲覧スペースはわずかなものとなっております。集密書架には、主として出版年度が古くてあまり使われない本や、雑誌のバックナンバー・紀要を置いてあります。一番奥には学術雑誌以外の一般雑誌を置いてありますので、ご利用下さい。

2階は入口に検索コーナーがあり、奥に向かって、大形本・参考図書・分類0門～3門の終わりまでの書架が並びます。建物の構造上壁が所々残り、変則的な書架となりますが、大体以前の第2図書室・第3図書室にあった図書が置いてあります。参考図書と心理・福祉・教育関係の図書すなわち人間発達学科・総合福祉学科関係の図書があります。また、2階一番奥の部分は自習コーナーとなっています。他の利用者の迷惑とならないよう、お互いに注意して利用して下さい。

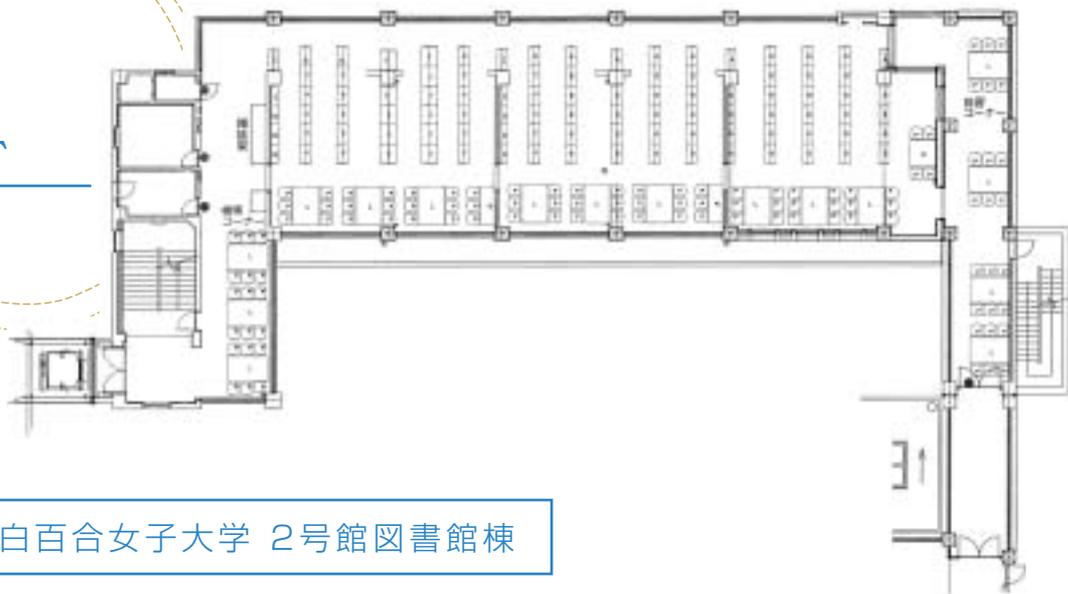
3階は分類4門～9門の終わりまでの図書が置いてあり、大体健康栄養学科・国際教養学科関係の図書になっています。3階レファレンス・カウンター付近に新しくAV（オーディオ・ビジュアル）ブースが出来ます。ここには8台の機械を置いて館内で試聴出来るようになります。AV資料はカウンター奥の事務室に置いてありますので、利用される時はカウンターの係にお申し込み下さい。

図書の貸出については、前にも触

3F

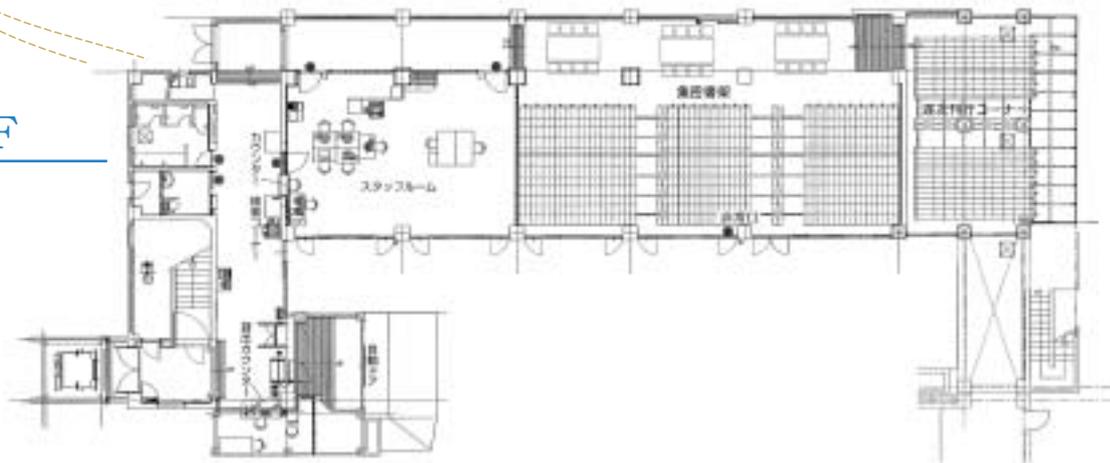


2F



仙台白百合女子大学 2号館図書館棟

1F



れましたが、検索の後借りたい図書を学生証もしくはライブラリーカードと一緒に1階入口のカウンターにお持ち下さい。係が貸出手続きを行い、ブック・ディテクション・システムに掛からないようにします。返却についても、1階入口のカウンターにお返しいただければ、係が手続きを行います。また、

貸出・返却のための自動貸出返却装置が1階入口右側掲示板の脇に置いてあります。これを使用する時は、装置の表示に従って手続きを行って下さい。

2階にはレファレンスのカウンターがありませんので、1階もしくは3階のレファレンスコーナーをお使いになるか、2階検索コーナー脇の電話でお

尋ねいただく形となります。

建物の構造上、ご不便をおかけする面もあると思われませんが、スタッフ一同、今まで以上に丁寧な対応を心がけていきたいと思っておりますので、気軽にお声をおかけ下さい。



# 書館から“NEWS”を続々発信!

新着図書を紹介



## 「まほろ駅前多田便利軒」

三浦しをん 著  
文藝春秋

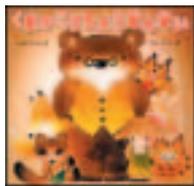
東京のはずれに位置する“まほろ市”。この街の駅前でひっそり営まれる便利屋稼業。今日の依頼人は何をもちこんでくるのか。痛快無比。開巻有益。やがて切ない便利屋物語。第135回（2006年度上半期）直木賞受賞作。他に『私が語りはじめた彼は』が図書館に所蔵有。



## 「風に舞い上がるビニールシート」

森絵都 著  
文藝春秋

上司で元夫のエドが、アフガンで死んだという知らせに立ち直れないでいる里佳を、ある記者が訪ねてくる……。表題作ほか、大切な何かのために懸命に生きる人たちの、6つの物語を収録する。デビュー作『リズム』以来様々な児童文学賞を受賞し、『Dive!! 全4巻』（所蔵有）で飛込みの世界を描いて好評を博した森絵都の第135回（2006年度上半期）直木賞受賞作。



## 「くまのこうちようせんせい」

こんのひとみ、井本蓉子 著  
金の星社

おはよう！ 大きな声のくま校長先生。小さな声のひつじくん。ある日、校長先生は小さな声しか出せなくなりました。でも、それでわかったことがあったのです。元気な子も静かな子もいろんなお友達がいっぱい！ そんなふに、背中を押してくれるあったかい絵本。末期癌と宣告されながら弱りゆく姿を子ども達にありのままに見せ、命の尊さ、生きる意味を教えた神奈川県茅ヶ崎市の浜之郷小学校の校長・大瀬敏昭さん。浜之郷小学校で出前コンサートを開いて以来、大瀬先生と交流のあったシンガーソングライター・こんのひとみと、絵本作家・いもとようこのコンビによって、大瀬先生の思い出を1冊にした絵本。



## 「風のまちで」

佐々木拓哉、佐々木智子 著  
文芸社

太古の昔から降り積もった時間の層を溯って、ぼくは昭和39年、父が子どもだった時代にやってきた……。見知らぬ町にひとり投げ出された少年・一樹。そこで出会った昇平との友情、ふたりの大冒険の行方は……。『古い地図の村で』で絵本・児童文学研究センターの第5回児童文学ファンタジー大賞・奨励賞を受賞した地元仙台在住の夫佐々木拓哉と仙台市出身の妻智子が合作で描く、日本の家族が最も輝いていた東京オリンピックの頃の、仙台市に似た架空のまち“しらはぎ市”を舞台にした児童小説。河北新報「ひと・まち・フラッシュ」でも紹介されている。



## 「子どもに障害をどう説明するか」

相川恵子、仁平義明 著  
プレーン出版

特別支援教育時代に障害をどう語るか。本書では、障害のある子どもについて、他の子どもや大人たちに説明をする時にどうしたらよいかについて考える。全ての先生、お母さん、お父さん必読の書。



## 「藤沢周平全集 全25巻+別巻1」

藤沢周平 著  
文藝春秋

内野聖陽主演でドラマ化された名作「蝉しぐれ」でも有名な小説づくりの名工藤沢周平の作品全集。端正緻密な小説世界。これこそ人生通の、大人の物語。日本人なら忘れがたい、愛惜さそう情趣のすべてがここにある。『蝉しぐれ』DVD版も所蔵有。

## 「中村真一郎文庫」について

図書館長 大本 泉

仙台白百合女子大学図書館には、「中村真一郎文庫」があります。他の大学にはないコレクションですので、簡単にご説明したいと思います。

中村真一郎は、1918年、東京に生れ、1997年末に亡くなった文学者です。東大仏文科卒業後、42年に福永武彦、加藤周一等と「マチネ・ポエティック」を結成し、戦後の47年、『1946 文学的考察』の刊行とともに、『死の影の下に』により、〈戦後派〉作家としての地位を確立しました。小説の他に、翻訳、評論、詩、戯曲と多方面にわたり活躍。古今東西の文学に造詣が深く、新しい文学方法を試み続けたスケールの大きい作家です。

2003年の暮、未亡人の佐岐えりぬ氏が、多くの大学がある中で、愛着のある御著書約130冊を本学に寄贈して下さいました。御趣旨は著書の散逸を防ぎ、できるだけ多くの若い世代にも中村真一郎の文学を読んでほしいとのことでした。佐岐氏は、詩人、エッセイストとして、詩の朗読活動にも活躍していらっしゃいます。ちなみにお嬢様は、カトリックのシスターとして、イスラエルの修道院にいらっしゃるそうです。御恵贈いただいた経緯の詳細は、2004年6月に発行された「リスブラン」に触れましたので、ご参照ください。

さて、2006年4月22日、日本近代文学館にて、「中村真一郎の会」設立総会、黒井千次氏と丸谷才一氏の記念講演会がありました。同会の目的は、「中村真一郎の業績を讃え、これを広く、かつ永く伝えること」にあります。発足当初、すでに220名程の普通・法人会員が登録し、個人作家の研究会としては、大規模なものになりました。監事の中村稔氏、会長加藤周一氏、幹事長安藤元雄氏、幹事大岡信氏他14名という役員メンバーです。

懇親会では、本学の「中村真一郎文庫」の話題が出ました。某大学教授は、最近、修士論文で『雲のゆき来』をとりあげた大学院生がいるとおっしゃっていましたが、

時空の拡がりのある、これもお薦めの本の一冊です。日本の古典文学と、ヨーロッパ文学をも渉猟して構築された、いわば研究者なかせともいえる中村真一郎の文学ではありますが、今後一層の、研究の発展・深化が予想されます。日本経済新聞でも、会の発足に触れ、同文学の再評価の機運が高まっていることを論じていました。本学の文庫を利用していただくことにより、内外諸氏の研究の一助となることを期待しております。

そしてなによりも、佐岐氏が望んでいらしたように、本学の学生をはじめ、教職員の皆さんにもぜひ読んでいただきたいと思います。ゲーテは、「書物は新しい知人のようなものである」と述べました。知識と教養の深まりは、新しい知人である書物との出会いの積み重ねによるものでしょう。まずは同文庫の本を一冊手にとってみてください。すでに本学のある在校生が、『文章読本』が、とてもわかりやすく、おもしろかった」と感想を伝えてられています。

皆さん、ご一緒に、本学コレクションの「中村真一郎文庫」を介して、「個」をみつめ直すとともに、コミュニケーションの輪をも広げていきませんか。

最後になりましたが、紙面を借りて、知的冒険にあふれた中村真一郎文学に向きあう機会を下さったご遺族に、改めて心より御礼申し上げます。



## 指定図書のご案内

指定図書とは、授業において必要な参考書や目を通しておくと授業の理解に役立つ図書を先生方が指定し、図書館でそのコーナーを設けて学生に供しようという、今年度から始まった試みで、基本的に館内利用となります。以下、各先生の指定例の一部をあげますので、時間がある時に目を通しておいて下さい。

なお、指定図書のコーナーは2階書架のうち、入口付近に設けてあります。

- 人間発達学科 牛渡・朝倉先生指定図書  
「ルソー エミール入門」「エミール 上・中・下」  
「ルソー 著作と思想」
- 健康栄養学科 高橋伸子先生指定図書  
「もの食う人びと」「日本の食文化」
- 健康栄養学科 猪股恵美子先生指定図書  
「インスリン物語」「彩花へ：生きる力をありがとう」
- 総合福祉学科 加藤美枝先生指定図書  
「福祉国家と市民権」(社会福祉原論)  
「国際社会開発」(国際福祉論)
- 総合福祉学科 中熊靖先生指定図書  
「高齢者福祉概論」(老人福祉論)  
「家族福祉の視点」(生活福祉論Ⅰ)  
「ゼミナール経営学入門」(福祉経営論)
- 非常勤 千葉正昭先生指定図書  
「沈黙」「複合汚染」(日本語表現)

### ◆ 10月の開館予定 ◆

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9 体育の日	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28 白百合祭
29 白百合祭	30 白百合祭代休	31				

閉館
  9:00~18:00開館
  9:00~17:30開館
  9:00~12:00開館

### ◆ 編集後記 ◆

キャンパス整備の一環として図書館をリニューアルすることになりました。長年の図書館機能の分散化に終止符を打ち、一本化した図書館がスタートするのです。それにあわせて、館長の提案により、図書・紀要委員会として「図書館報」を出すことになりました。

創刊号は、あまり構えず、淡々と、しかし新しい図書館の息吹を感じさせる内容になるように編集したつもりです。改めて『本』のもつ味わいと新しい図書館への期待が沸いてくるよとののですが、いかがでしょう。

(白川)

図書館のリニューアルに伴い、年度の半ばでシステムの大幅変更となり、利用者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。引越しのあわただしい作業の中、ようやく図書館報発行までこぎつけたという感じです。忙しい中原稿を書いて下さった先生方及び実習先や帰省先から原稿を送って下さった学生寄稿者の皆様、本当にありがとうございました。

図書館報に対する皆様の感想などをお寄せ下さると、ありがたく存じます。

(生出)